

# 新教育課程をふまえた教育経営

望ましい人間形成をめざして

足利市立千歳小学校 五月女 宣

教育課程改訂の基本方針の(1)は、小学校教育は、人間形成における基礎的な能力の伸長を図り、国民育成の基礎を養うものであることを基本理念とし、(2)には、望ましい人間形成のうえから調和と統一のある教育課程の実現を図る。すなわち、基本的な知識や技能を習得させるとともに、健康や体力の増強を図り、正しい判断力や創造性、豊かな情操や強い意志の素地を養い、さらには国家社会についての正しい理解と愛情を育てる。と述べている。

本校においても、望ましい人間形成のうえから調和と統一のある新しい教育課程を編成するため努力しているところである。

ところで、この編成された教育課程は、やはり調和と統一のある学校運営によって実現がはられるわけである。

本校では学校経営方針の中でもこの点を重視し、従来から次のような指針により運営してきたのである。次に学校経営計画の抜すいをあげてみることにする。

## ○ 学校経営方針

調和と統一のある学校運営を推進する。

## ○ 努力点

方針をうけ努力する点として、次の項目をあげている。

- (1) 学校評価に基づく諸計画の改善と実施
  - (2) 移行期における教育課程の整備とその適正な実施
  - (3) 学年・学級経営の充実
  - (4) 校務運営の能率化・標準化
  - (5) 設備備品・教材教具の計画的充実とその活用
- 具体策として、(1), (2), (4), (5)は略して、(3)について述べる。

(3)については、創意とくふうを生かした調和のとれた協業と分業の学年経営をすることを考え、その実施の事項として、

- ・ 学年経営の確立
- ・ 教科担任制の実施
- ・ 研究教科の分担と協力

をあげている。

以上学校経営の方針、努力点、具体策と一連の計画をあげたのであるが、学校経営の立場からみて、非常に重要な学年経営や教科担任制についての考え方を論じてみたいと思う。

ここでもう一度新学習指導要領にもどって、総則の第1教育課程一般の(7)の(4)をみると、指導効果を高めるため、教師の特性を生かすとともに、教師の協力的な指導がなされるようくふうすること。ということが述べられている。ここでいっている「教師の特性」とは、教師の性格、専攻分野、

性別などを意味し、「教師の協同的な指導」とは、いわゆる交換授業・学年全体を対象とする合同授業その他ティームテーチングを指す。小学校においては、中学校におけるような教科担任制ではなく、学級における全人的な指導は必要であるが、小学校でも教師の特性を生かし、教師の協力的指導によって指導の効率をいっそう高めることがたいせつである。と解説している。以下に学年経営・教科担任制についてのべることにする。

## I 学年経営

### 学年経営の視点

学年経営を充実させることを努力点としてあげ、その運営につとめた理由は、学校経営と学級経営という二つの柱を結び合わせるものとして、学年経営の協同化を重視したからである。小学校においては、学級における全人教育を学級内の指導で推進できると考えられてきたが、教育の近代化が進むにしたがって、教育内容は高度になり、教育機器が導入されたり、子どもの集団が複雑になったため、ひとりひとりの学級担任では負いきれなくなった学級経営ということが考えられてきたのである。今までも学年経営というものがあるわけではないが、これからの学年経営は単なる平行的な学級間の連絡調整ということではなく、同一学年の教師が同一学年の児童の教育活動に対して共同の責任をもつという意図にもとづいた新しい視点に立っているものなのである。

あとで述べる教授組織の改善も、児童の学習活動、教師の教授活動の質的改善を中心的な問題として考えられたものである。

学年経営が単に学校経営と学級経営という二つの極の橋渡しの役目でなく、学年組織それ自身が主体性をもったものであって、学校・学年・学級が密接にかみ合って活動していかなければならない。

以上学年経営の視点を考えたわけであるが、このことをよりよく浮き彫りするためには、学級経営の長所・問題点をみていくことも参考になると思う。(全国教育研究所連盟編第20次年報75ページを参照されるとよい)

### 学年経営と学級経営 (開かれた学級)

学年経営をする上に最も必要なことは、学級が開かれた学級であるということである。学級は学校の中であって個々に孤立してあるものでなく、同学年の他の学級、他学年の各学級との関係をもって学校の組織の単位となるものである。学級の独自性が強くなりすぎて閉鎖的になることは警戒しなければならない。標題にもあげたように、開かれた学級をつくらなければならない。子どもの望ましい成長発達には、学級内だけではなく、学年・学校という、より広い場で教育されてとげられていくものである。

教師もまた学級担任として学級内の指導にあたるだけでなく、学校・学年という組織に参加することによって、より広い立場の指導にあたり生きがいを感じることができると思う。

そこで次にたいせつなことは、この学年経営がその性格においては先に述べた視点に立ち、機構や機能などが組織的に構成されなければならないことである。この考の上に学年会とか学年主任とか、学年における教科担任者と学級担任者との関係とかの具体的組織・運営をしていくことになるのである。これから学年経営を進める上の問題点として重要なことを考えてみたい。大きく分けて教科指導

の立場からと、教科指導以外のいわゆる生活指導といわれる面に分けてみていくことにする。

### (1) 教科指導

教科指導においては、研究教科を分担し、学年としての学習指導を進めるために、計画・実践・評価の一連の指導活動が、学年の教師相互による業務の分担と協業によっておこなわれるようにする。これを一步進めて、上学年においては学年内の、または56学年を通じての教科担任制を加えていくことになる。教科担任制についてはあとでくわしく述べることにする。

### (2) 生活指導

教科指導に対するものとして、児童の生活を指導する面を一応生活指導の名称でいうことにする。生活指導は子どもの現実の生活にのっとって、児童の生活そのものを指導するのであるから、全生活にわたって指導がおこなわれるわけである。そのためには学級担任教師だけが努力しても効果があがらない。学年全体さらには学校全体が共通の指導方針に従っておこなわなければならない。ここに児童の発達段階の大体同じ児童全体を対象とした学年の指導が効果をあげることになるわけである。よい学年経営なしにはよい学級経営はむずかしいといつてよいと思う。

#### 学校経営と学年経営

学年経営は学校経営と学級経営の中にあつて、学校経営の基本方針を各学年に浸透させ各学年の各学級がばらばらの経営にならないよう、各学級が個性をもった学級経営であり能率的に進められながら統一されるようにするところに学年経営の重要さがある。

## II 教科担任制

これから教授組織における協力指導についての考え方を、学校経営の立場から述べていくことにする。

### (1) 学級開放の意義

小学校において教科担任制をとる前提としてたいせつなことは、学級間のセクト主義を排して開かれた学級とすることである。これについては、学年経営と密接な関係にあり、前にも述べたところでもあるが、まず低学年のように教科担任制をとらない学年にあつても、学年の教科を分担研究し協力して学習指導にあたるという開かれた考えをもたなければならない。各担任がどの教科も一応研究して指導するにしても、研究教科を分担してより深い研究を進め、その研究をもちより、学年としての教科指導をするという意識をもつことにより指導の効果をあげることができる。これが教科担任制の前提となる研究教科の分担と協力である。この上に教科担任制が実施されるのであつて、学級開放の意義は教科担任制の学年だけの問題ではないのである。

### (2) 教科分担指導の効果

教科担任制の特長は、複数の教師の協力による、より広い視野からの子どもの理解やは握と教師の専門性による学習や指導の効率をあげることができる点にある。学級担任がその学級の全教科をひとりですべて指導するのは、全児童のは握が容易であり、教科間の関連がよくとれる反面、教師の構えや教科指導の得手不得手による教科間の指導のかたよりが生まれる心配がある。(これは学級担任制の長所・問題点としてあげられるうちの一つである)ここに、さきにあげた教科担任制の長所を生かした指

導を期待することになるのである。

### (3) 教科担任者の児童指導意欲

教科担任制をとり入れた学年においては、教師の特性を生かした指導により、各教科の指導の効率をあげるとともに、たいせつなことは、人間形成の基礎をひとりの教師による指導で培うのではなく、教師たち（教師集団）の指導の総合によってつくるということである。後者の方がより広く深い、力強い基礎が培われるという期待なのである。ひとりの教師では負いきれない責任を多数の教師が共同で負い、教育の目標を達成しようとしているのだということである。また教科担任者として心すべき点は、学級内の各個人の学習指導上の問題点をじゅうぶんは握するとともに、学級集団としての問題点をよくは握して指導の改善をはからなければならないことである。

### (4) 学級担任と教科担任の協力

小学校における教科担任制の実施については特にこの学級担任と教科担任の協力を留意しなければならない。教科担任者が学年内の教師だけであればそのままよいが、教科担任者が他学年または専科教員である場合はその学年会のメンバーに加えて、学年会に出席する必要がある。じゅうぶん学習態度や生活指導についても打合わせるべきである。教科担任者は学級を単位として教科を指導することが常態であるが、その教科については、いうなれば学年担任であるから学年経営分担者のひとりとして学年経営に密接な結びつきが必要になる。

### (5) 教科担任者の構え

教科担任者は単なる教科の伝達ではなく、教科の目標達成を通して人間形成の基礎を育成するという態度をもたなければならない。教科の先生であるだけでなく教育する先生としての構えを必要とする。指導法についても自発的自主的に学習するようにくふうしていかなければならない。このような教科担任者の構えについては、学校全体の共通目標と実践が要求されるのであるが、本校においては自主的学習態度の育成は学校としての目標の一つにあげて全校でとりこんでいる。たいせつなことは、教科担任者が教科の目標達成を通して、生活指導の面を通して人間形成をめざして努力することである。教科担任者がこの構えで指導するとともに教科担任者がよい指導のできるためには、学級担任がよい学級のふん囲気を育てておかなければならない。

## む す び

基本的な知識技能を身につけ、健康で体力があり、豊かな情操と強い意志をもった子どもの育成が小学校教育のねらいであり、そのために編成される教育課程は調和と統一がなければならない。領域的には各教科・道徳・特活、機能的には学習指導・生活指導であるが、経営の面でも、学校経営・学年経営・学級経営の三者に統一がとれていなければならない。学校経営の方策が学年学級の経営を通して具体的に実施され、方策によっての学年学級の活動がまた学校経営を実現させることになるわけであって、ここに学校・学年・学級という三つがかみ合って力動的に働いていかなければならないものである。望ましい人間形成をめざして、学校・学年・学級の経営という面を述べたものである。

## 評

調和と統一ある教育課程の編成こそ、改訂学習指導要領の根本方針であり、それは調和と統一ある人間形成をめざしていることに外ならないのである。調和と統一ある人間とは、知情意体が個性豊かに調和がとれ、しかもそれが高い道徳性によって統一された人間であるといえよう。

本研究論文では、調和と統一をめざしての学校・学年・学級経営の一貫性の必要性、特に学年経営のあり方、さらに教授組織の改善を意図しての教科担任制の問題について論じているが、いづれも妥当性のある見解であると思われる。ここで述べられた理論が、学校経営という実践の中で見事な花を開くことを期待している。

調和と統一ということばが最近流行語になっているが、このことばを単に流行語に終らせることなく日々の教育実践の中で真に生かされなければならない。例えば、調和のある教育課程とは、具体的にどういうことなのか、さらに統一とは何か、どのように教育課程を編成することが、調和と統一ある教育課程といえるのか。等……それには、教育目標と教育課程との関連についての研究、教育目標そのものに対する再検討なども必要になってくるであろう。

いづれにしても現時点では、これ等の問題の追求についてはまだまだ未開拓の状態であり、今後、継続的な研究と実践を重ねる必要性を痛感している。